

平成25年度 中央区立久松幼稚園 自己評価報告書

中央区立久松幼稚園 住所 東京都中央区日本橋久松町7-2

園長 酒井 寛昭

幼児数 179名 学級数 7 教員数 9名 職員数 7名

教育目標

人間尊重の精神を基調として、生きる力の基礎を培う教育を推進する。心身ともに健康で主体的に身近な環境や人と関わりながら、節度ある礼儀や基本的な生活習慣、規範意識の基礎を培うことを目指し、次のような子どもの育成に努める。

- たくましい子 ・心身ともに健康な子を育てる。
- 進んでやる子 ・素直に表現し、自ら考え進んで行動できる子を育てる。
- 心豊かな子 ・思いやりの心もち、心豊かな子を育てる。

25年度の重点 幼小の9年間を見据えた一貫性・連続性のある久松の教育を推進

重点目標1

自分から進んで健康で豊かな生活を送れるようにするために、必要な習慣や態度を身に付ける。そのために体験と繰り返しを重視する。特にあいさつをする心地よさを味わえるようにする。

(道徳性の芽生え、規範意識、自立心の芽生え)

評価項目：

- ① 保護者との連携を密にする。
- ② うがい、手洗い、衣服の着脱、排泄などの活動を毎日繰り返し体験する。
- ③ あいさつをする機会を意図的に繰り返し設ける。

評価指標：(保護者評価80%以上)

- ① 保護者と幼児一人一人の成長や課題について降園時に話し合ったり、保護者会や学年・学級便り等を通して基本的な生活習慣が身に付くように知らせたりする。
- ② 幼稚園のいろいろな活動の中で、幼児一人一人に生活習慣が身に付くように指導する。
- ③ 様々な人と関わる場面を通して、相手を見て気持ちのよいあいさつができるように指導する。

重点目標2

学級・学年を超えた兄弟姉妹のような関わりがもてるように、他学年と一緒にする交流活動を充実させる。(多様な関わり、思考力の芽生え、協調性、言葉による伝え合い)

評価項目：

- ① 年齢の交流を意図的・計画的に設ける。
- ② 学級・学年間の交流の他、小グループでの異年齢活動を推進する。
- ③ 小学生、他の幼稚園・保育園の子どもたちとの交流の機会を設ける。

評価指標：(保護者評価80%以上)

- ① 学年と交流することで、一緒に遊ぶことや関わることを楽しめるようにする。
- ② 異年齢活動が充実するために、教職員が連携を深め、幼児一人一人の様子を把握し、幼児の興味や関心をとらえた保育内容を工夫する。

- ③ 併設小学校や他の幼稚園、保育園の教職員と連携を図り、情報交換や交流活動の充実を図れるようにする。

### 重点目標 3

身体全体を動かして遊ぶことを中心に、たくましい心と体の育成を図る。

(豊かな心と健やかな体、協調性、道徳性の芽生え、言葉による伝え合い)

評価項目：

- ① コミュニティー道路、校庭、体育館、屋上という環境の特性を最大限に生かし、個や集団での体を動かす活動・遊びを繰り返し行う。
- ② マイスクールスポーツの多様な活動・運動遊びに喜んで取り組めるようにする。

評価指標：(保護者評価80%以上)

- ① 環境の特性を生かしながら、個や集団での身体を動かす活動・遊びの工夫をする。
- ② 身体を動かして遊ぶことを楽しめるようにする。その際、各年齢の発達に応じた取組をする。

### 重点目標 4

幼児の生活や心情を豊かにするために、栽培活動、食育、伝統行事を積極的に取り入れる。

(健康な心と体、自然との関わり、生命尊重、豊かな感性と表現)

評価項目：

- ① 植物に親しみ、保護者とともに植物を計画的に栽培する。
- ② 食への関心を高めるため、お弁当を中心に据えながら、育てて食べるなどの食育を推進する。
- ③ 様々な人と関われるよう、七夕、地域巡りでの獅子舞、お正月遊びを充実させる。

評価指標：(保護者評価80%以上)

- ① コミュニティー道路での栽培活動を通して、水やりの世話をしながら生長を楽しみにする。
- ② 弁当時には、弁当を作ってくれたことへの感謝の気持ちや残さず食べる気持ちよさなどを感じられるようにする。また、栽培したものを使用して食べることの活動を充実させる。
- ③ 伝統行事を通して季節感を味わったり、地域社会の方々と触れ合ったりしながら、幼児一人一人の心情が豊かなものとなるようにする。

## 教員・保護者のアンケート結果から分かったこと

### 1 重点目標の達成状況と取組状況

発達に応じた生活習慣(あいさつ、うがい、手洗い、衣服の着脱など)については、保護者との連携を密にしながら、繰り返し指導を行ってきた。幼児一人一人に習慣として身に付いてきていて、教員、保護者ともに、一定の評価を得ることができた。

他学年との交流活動を計画的に繰り返し行ってきたことで、好きな遊びでも互いの保育室を行き来したり、園舎内や園庭で見かけると手を振り合ったりするなどして自然な関わりが見られ、目標をほぼ達成したと考えられる。保護者からの評価も高かった。今後、園児数の増加が見込まれているが、他学年との交流が持続できるように、内容や進め方の見直しと一層の工夫をしていく。また、引き続き久松小学校との

交流を進めていく。

今年度の園内研究では、「豊かな心と健やかな体の育成一体を動かして遊ぶことが大好きな子どもを育てる一」を主題に、幼児が進んでいろいろな運動遊びに取り組み、多様な動きを経験できるような教師の援助と環境の工夫について理解を深めてきた。園内研究の学びを保育で実践したことで、多くの幼児が体を動かして楽しむ姿が見られた。来年度、増築工事が本格化する中で、遊びの場が限られるため、今後も指導・援助の工夫が求められている。幼児の育ちが保障されるように、教職員が協力しながら努力していきたい。

また、研究主題を小学校と共通にし、合同研究会を年に数回設けたことで、幼稚園・小学校9年間の連続性について、幼小の接続についての意識が高まった。来年度は、中央区教育委員会研究奨励園として研究発表を予定している。園内研究の充実とともに、成果を日々の保育に生かしていく。

栽培活動・食育・伝統行事を積極的に取り入れる項目では、保護者から高い評価を得ている。幼児が栽培したものを弁当時に食べたり、カレーパーティーを行ったりすることで食への興味を高めている姿、伝統行事や季節の行事を通して季節感を味わっていること、七夕や地域巡りなどを通して地域の方との関わりをもつ姿などが、評価につながったと考えられる。

また、保護者アンケートに、『幼稚園で地域への関わりを積極的に行うことで、町中で声を掛けてもらうことがあり、恵まれている』との記述があった。今後も『地域との関わり』を特色ある教育活動のひとつとして、継続していく。

#### 26年度に向けた取組

- 1 10月に中央区教育委員会研究奨励園の研究発表を予定している。幼児が進んでいろいろな運動遊びに取り組み、多様な動きを経験できるように、教師の援助と環境の工夫について、さらに研究を深めていく。
- 2 増築工事が本格的に始まり、幼児の活動場所が限られてくる。発達に応じた活動を充実させ、幼児の育ちを保障するために、活動内容や環境の工夫をより一層していく。

評価委員：岩田 享也委員、吉澤 功勝委員、関口 利子委員、福田 錦二委員、佐藤 寛委員  
福田 俊子委員、渡辺 圭子委員、望月 邦夫委員、川口 修一郎委員

報告書作成者：境田 和男委員

評価時期 平成26年3月

## 1 重点目標の評価

### 重点目標1 「様々な習慣や態度を身に付ける」について

評価項目（保護者との連携、基本的な生活習慣を身に付ける、発達に応じた生活習慣が身に付いている、気持ちのよいあいさつをする）

・どの評価項目も、保護者アンケートでは、肯定的評価が90%を超えており、取組内容が十分に理解されている。特に「様々な人とあいさつをする心地よさを感じている」では、繰り返し指導を重ねた成果が現れ、94%の保護者が肯定的な評価をしている。また、うがい、手洗い、衣服の着脱、トイレ等の基本的な生活習慣を一人一人に身に付けさせる取組は、保護者とも連携を密にして取り組んだこともあり97%の肯定的な評価を得ている。目標を十分に達成している。

### 重点目標2 「他学年との交流活動の充実」について

評価項目（一緒に遊ぶ楽しさ、やさしさやいたわり、憧れの気持ちを育む、教職員の連携を深める、学級、学年、小グループでの異学年活動を楽しむ）

・他学年と交流することでやさしさやいたわり、憧れの気持ちなどを十分に育むことができている。保護者からも97%の肯定的な評価を得ている。また、「教職員が連携を深め学級・学年間の交流の他、小グループでの異年齢活動を楽しんでいる」に関しては、91%の保護者が肯定的な評価をしており、目標を十分に達成している。

### 重点目標3 「身体全体を動かして遊び、たくましい心と体の育成」について

評価項目（個や集団で身体を動かす活動や遊びの充実、各年齢に応じた取組、身体を動かすことを楽しむ）

・この評価項目は、本園の園内研究とつながっており充実した取り組みが行われた。特に、コミュニティ道路、校庭、体育館、屋上という環境の特性を最大限に生かし、個や集団での体を動かす活動・遊びを繰り返し実践した。これらのことが保護者にも理解され、肯定的評価は、96%に達している。また、マイスクールスポーツの「多様な遊び」（鬼ごっこ、かけっこ、リレー遊びなどに）に喜んで取り組んでいるかの項目では、保護者の肯定的評価が99%に達している。

### 重点目標4 「幼児の生活や心情を豊かにすること」について

評価項目（栽培活動を通して喜んで栽培する、感謝の気持ちを育む、伝統行事を通して心情豊かにする、地域の方々と触れ合う）

・どの評価項目も保護者の肯定的な評価が96%を超えており、十分に目標を達成している。特に植物栽培に保護者と取り組んだことや、お弁当を中心に据えながら育てて食べるなどの食育を推進し、食への興味や関心を高めたことなどが高い評価につながっている。伝統行事を通して季節感を味わわせることや地域社会の方々と触れ合わせる教育活動に関しても高い評価である。

## 2 今後の改善に向けた意見

- ・園児の増加に伴い、保護者一人一人との緊密な連携が損なわれないように心がけたい。
- ・併設小学校や他の幼稚園、保育園の教職員との連携を図り、さらなる、交流活動を充実させたい。

## 3 その他の意見

- ・個々に対する細やかで丁寧な教師の指導により、幼児一人一が安定した園生活を送っている。
- 保護者、学校評議委員からの教育活動に対する評価は、とても高い。